
架空の森

ありま翔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

架空の森

【Nコード】

N95240

【作者名】

ありま翔

【あらすじ】

森でのお話です。

ひろ（10歳）は迷ってしまったのでしょうか。

そして、大きな樹の根元の洞に寝込んでしまったようです。

果たした、ひろはどうなるのでしょうか？

ひろの場合

ひろの場合

わたしはひろ、十歳、森の中を歩いています。

どこから道を逸れてしまったのか、もう思い出せません。どのぐらい時間が経ったのかも分からなくなりました。すべての束縛を放り投げて、というような気持ちはありません。ただなんとなく学校への道が遠くなって、バスを反対方向に乗っていました。

着いた停留場は森の入り口。

周りには何もありません。草の刈ってある広場とその向こうに広がる森。

樹の間に見える道。誘われるように歩き出しました。

森は怖い。

最初は明るくて樹もまばらなんだけど、段々深くなる。

樹が高くて光が届かない。でも整備されているし、道沿いの花もきれい。

この先、牧場があるのだと思う。放牧された動物たちがいるのだろう。

ちょっと楽しみ。

なんだか、嫌なことは忘れて、幸せになれそうな気分。

そういうことが必要なんだと思う。そうしないとダメになっちゃう。気候は最高、木漏れ日の中の空気が気持ちよくて森の精が現れそう。わたしをどこかに連れていってくれないかなあ。

足元の土が柔らかくて、ふかふかふかふか。

名前はわからないんだけど、大きな樹が声をかけてくれそう。

お嬢さん、

それって私。

手を振り、指を鳴らす。

腕を広げて、低い声。

ご機嫌はいかがですか？

わああ、少し楽しくなる。

声を出して、最初は囁くように、段々と大きく。

元氣、元氣、元氣、樹さんはどうなの。

私は静かな森の住人、ゆったりとした時間が流れていきますよ。

そう、それはステキね。またまたこの次ね。

わたしはどんどん進んでゆきます。

だんだん暗くなって光も届きません。

疲れて眠くなってきました。

森の中は湿って、温度が保たれています。

それに樹さんたちの魔法の呪文がそよいでいきます。

わたしはすやすや、すやすや大きな根の洞で寝込んでしまいました。

そう、きっと永遠の眠りについてしまったんだわ。

こずえの場合

こずえの場合

私はこずえ、主婦です。

月に一度、市内からバスに乗って40分ぐらいかけてここへきます。終点まで、ボーっとして過ごすのは悪くありません。

忙しすぎると感じていました。

こんなはずではなかった、のかもしれない。母まで倒れてしまうとは正直思わなかった。

介護は子供の務めかなと感じます。

余裕があるならそのぐらいしてあげたい。

夫も少し不便だろうけど、理解してくれているし、でも頭で考えているより楽じゃない。

肉体労働だし、神経もすり減る。

父は病人で、病人らしくひどくわがままだし、ときどき意地悪になる。

こんなことその時は考えてもいなかったけど、そろそろ限界に来ていたのかもしれない。

父の介護や、それぞれの仕事でもう伸びきっていたのかしら。

母が倒れて、一命は取り留めたけど、

ふつ々の日常を送ることができなくなった。
その施設が市の郊外の森にあった。

わたしは母の様子を見に行く。

そしてひと月の費用を払い、医者にあつて容体を聞く。

母は必ず、ええーとだれでしたか、と尋ねる。

わたしは、あなたの娘のこずえよ、と答える。

本当に分らないのだろうか。

お医者さんに聞いても、そういう時もあるかもしれない、と答えるだけだ。

だれにも本当のことはわからない。

でもそのあとすぐ了解するようだ。そして何十年前のことを話す。あのお父さんはきつねだったよ、と言われてもわたしにはわからない。

よく狐に化かされたそうだ。

終点のバスストップは広場になっている。

バスはそこから折り返すからだった。

森入り口と記されてはいるけど、そちらの方に行ったことはない。

施設はほんの少し戻ったところにあつたから。

その森で事件が起きたことは知らなかった。

のりこの場合

のりこの場合

市の職員です。

特別職と言っているのでしょうか、永遠の森担当です。給料は悪くないんですが、天気の悪い時は特に滅入る職場ですね。時間がかかるし、臭いが出ます。

火力を強くすると骨が残らないから、苦情が出ます。

そうお分かりと思いますが、

火葬場にこんな名をつけるセンスが私には信じられません。

名前に森を入りたいのなら、市立森の火葬場で十分だと思いますか。

でも文句はいえませんが、苦勞して掘んだ仕事ですから。

市内から通っています。バスターミナルから乗って40分ぐらいかな。

24番、森入り口行きです。

一応、行政的には人工林が林ですね、自然林を森と分けていますが、まあ、余計わからなくなる感じです。

混じていたらどうするの、みたいに言いたいですね。

それはさておき、この仕事のことは前向きにとらえていきたいです。やはり自分のやっていることに意義を見つけないければやってられません。

基本は去って行く人に哀悼を表することです。

遺族に指示する時もありますから。

とにかく神妙な表情は崩してはいけません。

でもハツキリ言って、年寄りにはまあ順番だしみたいに感じます。

若い人はもつたないな、みたいに思います。

これから楽しいこともあったらうに、という感覚です。

家族や参列してる人見てグツとくるときもありますよ、いつもそんなじゃ持ちませんけど。

いろんな人いますけど、とりわけ嫌なのは有力者みたいな人。

その人じゃなくて取り巻きの人と言うのかな、どんだけ威張れば気が済むのか、って感じになります。

死ですら公平ではないのかな、と変に気色ばります。

バス停は終点の一つ手前、S大学前です。

カツコつきで永遠の森入り口としてありますが、市バスを使って火葬場に来る人はあまりいませんね。

こここの職員ぐらいいかな。学生に会うことも稀です。時間帯が違うのかも知れない。

事件のことは聞きました。パトカー何台も来てましたね。

木照（もくしょう）の場合

木照もくしょうの場合

S寺の住持です。

本寺から遣わされていますがもう十年以上になります。
由緒正しいお寺ですよ、私が来たときは少し荒れていましたが。

本堂始めきれいに磨きあげ、裏に続く森も徐々に手入れしていきま
した。

ちょうど市に自然公園の補助金が下り、バス道路が増設され入り口
広場ができ、東屋や展望施設もできました。
ついでに大学や火葬場への道路も整備されました。

火葬場付属の寺ですか、などと失礼なことを言う人がいますが、歴
史が違います。

ただ、いかんせん補助金は一時的なもので実際の森の整備にはお金
が足りませんでした。行政というのはそんなものですね。

今は管理もされず、遊歩道なども荒れたままになっていますよ。
その分自然が残っているとは言えるのですが。

もともとイフのモリですよ。

もしも、とか架空のとかの意味ではありません。

畏怖の杜ですね。

森という言葉自体が寺社の奥に広がる木立を本来意味するものなんですよ。

仏教伝来より明治にいたるまで、寺院の方が神社より格が上ですから、念のため。廃仏毀釈みたいな運動が起こるまではですね。

でも実際はこのお寺も名前を変えて細々生き延びてきたわけなんです。

そのお話は別の機会にいたしましょう。

事件のことですね。

十歳の女の子が通学途中にいなくなったという。

親御さんは学校から連絡があるまで気がつかなかったようです。

とっさにああ言ったのは気が動転していたからでしょう。

それで母親が疑われることになったのですが。

「娘は熱が出て、家で休んでいます」

あとで新聞が書きたてましたから。

この話は檀家さんから聞いたのですが、夫婦仲があまりよくなかったみたいですよ。

またまた脱線していますか。

なにやら憶測が飛び交って混乱していたということですよ。

取りあえず夫から警察に連絡があって、

迷子、誘拐、失踪とかいろんな線で、子供ですから、捜査が始まったわけです。

その後バスの運転手がそれらしき女の子が森の入口で降りたと届け
出て、大捜索になったのですね。
私のところにも警察やってきましたよ。

でも3日経っても、4日目も見つかりませんでした。

みずきの場合

みずきの場合

はい、みずき、大学生です。

もちろんこの大学に入ることには親は反対しました。

わざわざそんな田舎の学校に行くことないじゃないか、というのと若い娘が一人でアパートに住んで通学するのは危険だ、ということですよ。

でも、田舎だから危険じゃないのでしょ、ということでも押し切りました。

母親に来てもらって住まいを選んでもらった。

だって、やはりこの辺り、のどかな感じするでしょ。

そう、この環境がわたしの望みだったの。悪い人なんか一人もいないように見えるもの。

市内からはバスで3、40分かな、少しずつ上ってきて、終点の1つ前。

私はバスに乗らない。だって学校のすぐ近くに住んでいるから。

寮がなかったから近在の農家の人が学生向きに都会風な住居を建てたの。

セキュリティもしっかりしているから、それで親も納得したというわけ。

何を勉強しているかと言えば、情報処理。
グローバルな教育というのがその売りなの。

まあ、よくやってる方じゃないかな、やること他にない、という感じもするけど。

週末はそこいら辺の森を歩きまわる。

なんてことないんだけど、アスファルトの道しか知らなかったから、なんでも新鮮。

デジカメ片手に野原をさまよう感じかな。

学校から森の入り口まで裏の方から行くとすぐなの。

というより裏の森はつながっているんだらうな。

一年以上歩いているけど、全体像はつかめない。

ひどく広いし、道がすぐなくなるから。藪の中を歩いていく勇氣はない。

ただメインは二本の道。沢の方へ下って行く道と山に登って行く道。校舎の方から直接は沢の方に出れなくて、裏の道を上ってやはり一度広場の方に出なくてはならない。

それに気付かない人が多いけど山に登りかけて、すぐ左手に展望するところがある。廊下みたいな道を行くと、そのまんま廊下になっ
ていて、手すりがある。
それだけ。

手すりに腕を乗せて眺める景色は壮大。

廊下の窓から下界をのぞく感じ。

なんだか生きてて良かったな、と思う。少し大げさだけど。

空の下に町が見える。そしてその先に海。

でも一番最初に見えるのは視界いっぱい、その時々
の雲。水平の視線が空だから。それだけで時間経つ
の忘れる。

わたし、ちょっと変かな。

事件のことは知らなかった。
でも、そんなだから彼女に会えたのかも
しれない。

ひろの場合 2

ひろの場合 2

「10歳少女、失踪か？」

6日、県警からの取材によってK市内の少女Hさん（10）が、昨日午前から行方不明になっていることがわかりました。市バス24系統の終着「森入り口」で降りてからの消息がつかめていないもようです。事故か事件に巻き込まれたものとして、警察では付近の捜索を始めるとともに目撃者の情報を求めています。

「少女（10）依然行方不明」

5日より行方不明になっているS市在住のHさん（10）の手掛かりは依然つかめていません。7日、警察は地元山岳会の協力も得て最後の目撃情報のある森周辺を広範囲に捜索しましたが、少女も遺留品も発見できませんでした。

本紙の取材によると、市バスの運転手Mさん（52）が少女を確認しました。それも学校とは逆方向で終点の森入り口で降りたそうです。同行者はなく、前の座席に座っていました。制服の子供が一人で、と不審には思っても声は掛けなかったようですが、降りてすぐ辺りを見回し、躊躇なく沢に出る方の道を辿ったと証言しました。前に来たことがあるのだな、とその時思ったそうです。歩調に迷いかなかったと。

地方紙の記事より。

あれから一度目を覚ましたの。

あの隙間から見えているとしたら月の光に違いないと思っていた。

辺りはしんと静まり返ってなんかいない。

いろんな物音が聞こえてくる。

一番は虫の楽団。月の下のステージでちょっとおすまじさんがタクトを振っている。

その表情までみえるようだよ。

あとはすぐ近くでがさ、がさ、こそ。こそ。

何か動いている。

そして、たぶん大きな鳥がほと、ほとと鳴く。

怖くはない。たぶん私には興味ないと思うから。

あの子たちにはあの子たちの生き方があるはず。

そのときだった。

一面が光になったの。

驚いただけで眩しくはない。

それからガーンというように何かが響いて、

わたしはハンマー投げの鉄の塊みたいに投げ出されたの。

光の洪水の中をぐいぐい、ぐいぐい進んでいく。

眩しくはないし、というより目も耳も利かなかったわ。

ただ温もりだけが感じられた。

包まれてどこかとながっているよう。だから怖くはなかった。

ずんずん進んでいって、少し淀んだ流れのようになった。高い空を漂っているようだし、深い海を泳いでいるように見えないし、聞こえないけど心配しなかった。ゆっくり、ゆっくり巡って行く。

大きな魚になったよう。

光に包まれているのに暗い音のない空間を。

その後のことはほとんど記憶にないの。

眠っていたようだし、夢のように野原を歩いていたらわ。

気づいたのは同じあの樹の根元。

お姉さんが、身体に手をかけて何か言っていた。

ああ、戻ってきたんだわ、と思ったの。

それからは大変。

数週間も経つての発見ということ、大騒ぎになった。

そのあと病院に入れられ動物のように検査されたわ。

でもどこにも異常はなかったの。

お医者さんは首をひねるけど、簡単なことがわからないの。

わたしの時間が止まっていたということだけなの。

それにそのスイッチが森の中にあるということ。

また行ってみたいかって。

それは無理、だって架空の森だもの。

その後 K記者の場合

その後 K記者の場合

当時私は駆けだしの社会部の記者で、当初からこの報道を担当していました。

行方不明の少女の安否は十日を過ぎた後、死亡説に傾いたように思われます、

そして県警は最後の捜索をしました。

重点は転落箇所が発見とか不自然な土の跡というように、事故並びに事件による遺体ならびに遺留品の発見だったと思います。

マスコミに取り上げられたにもかかわらず警察の発表は、捜査報告だけの簡単のものでした。完全な手づまりでした。だから、大学生による少女の発見は喜びを持って迎えられ、皆が安堵したわけでした。

少女は医師の診断を受け、心神耗弱による記憶障害とされました。

そのとき言った「架空の森」のフレーズが受け、その取材は私がしたものでしたのですが、大きく取り上げられました。

UFO説まで出た「架空の森」事件ではありませんが、私の中では引っかかるものを残しながらも終わっていました。

それがなぜ今、この事件を改めて思いだし、ひとむかし前の話をしているかというと、ひろを見たからです。それも全国紙で。

むろん犯罪を犯したわけではありません。

映画の新人女優賞を受賞したからでした。あいにくその映画はみていなかったなので、さっそく映画館に足を運んでみました。なぜだか

はわかりません、大きくなったひろを確認したかったのかもしれない。

そしてわかったこと。

それはひろはひろであったことでした。キラキラ輝くひとみに、照れたようでそれでまた挑むような口元。遠くを見つめている視線があつという間に凝縮してくるその瞬間、狂気かとも思えるほどの妖しい光がとる目元。最初に病室を訪れたときと同じでした。十歳の少女にコケツトリーを感じた不思議な時でした。

映画の中で彼女は少し不幸な役どころでしたが、そのことはあまり関係ないくらい彼女は彼女を演じていたのだらうと思えます。演技について私が語ることはないのですが、役は彼女の中で消化されていて、完璧の演技といってよかった。ブラボーと拍手をしたい感じでした。

2000年9月5日、林ひろ（10）は失踪します。

家族が警察に届けたのは夕方6時過ぎ。

学校が最初異変に気付きました。届け出もなく、急の欠席だったからです。一時限の終了を待って担任が少女の自宅に連絡を入れると母・くみ（42）が出て、「熱が出て、家で休んでいます。届けが遅れて済みませんでした」と答えたので、学校側は納得して彼女のことは忘れたようです。ひろには兄（14）がいます。

気が動転してと母は説明していますが、この返答は不可解でした。

そのあと、くみは昼休みに父親の方に連絡しています。

父・正（45）は、それほど重要視はしなくて、よくある寄り道のように感じたと言っていました。少し様子を見るよう妻に言ったそうです。

妻は心当たりのあるところに所在の確認をしています。

それから正の帰宅を待って、未だひろが戻らないので、警察に届け

出たわけです。

110番通報でした。

警察の発表では、落ち着いた声で「娘が今朝から見つかからない。調べてほしい」と述べたそうです。

正が手広く建設・不動産業をやっていることもあり、警察では身代金目的の誘拐の線も視野に入れて迅速に捜査を開始しました。そして自宅から学校の周辺、Sシステム等も使い車両、それに目撃者の聞き込みも始めました。

彼女は制服を着てランドセルを背負っているから、目立ちます。が、特定には骨が折れました。

スクール・バスの指定場所までの目撃証言はあるのですが、その後がつかめません。そんなことで夜のこともあり、犯罪者からの連絡もなく、その日は過ぎました。

朝の一報で市バスの運転手がひろを確認しました。それも学校とは逆方向で、終点の森入り口で降りたそうです。

ここまでは記事にしています。

その後 K記者の場合 2

その後 K記者の場合 2

その後の手掛かりは一切なしです。

そこで、私は脇記事として森にまつわる人物の取材をしています。バスストップでアポを取ったり、周辺を歩き回ったりして話を聞ける人を探しました。

こちらに時間の余裕があったことと、他紙で報道がなかったことで特ダネの可能性があったからです。

まあ、それは成功したとはいえるのですが。当時から市の財政は悪化しており、公園の管理も第三セクターに譲渡されることが決まりそうな時期だったので、デスクは社会ネタで引っ張ろうとしていました。宅地開発の許認可の問題も取りざたされていました。

どうということかというところ、公園のずさんな管理が人身事故を起こしたのではないか、という読みです。そういう事実がないとしても世論を喚起することができますし、行政に圧力がかけられると考えたからでした。ひょうたんに駒ではありませんが宅地造成の許認可絡みの贈収賄も浮かび上がるかもしれません。

父親の正は、その渦中の人でもあったので、いろんな憶測が飛び交ったのも事実です。

結局は何も明らかにはされませんでした。

私が一番不自然に感じていたのはひろの服装です。

一月近くも森の中にいたはずのひろの衣服があまり乱れていないという事実です。

それは報道されましたが、不審者による乱暴という文脈で語られていて、そういう事実はなかったことの証明のように言われています。

結果がよかったから、多くのことに触れないでおこうというような雰囲気がありました。

こちらは余談ですが、人間の社会というのは不思議なもので何にでも流れのようなものがあります。大げさに言えば時代の空気のようなものがあって、なかなか抗えないようです。

新聞記者が推論や憶測を語ってはいけないので、私はみずきの行方を調べました。

彼女は東京のコンピュータシステムの会社に勤めていました。

アポを取って指定された日時に電話をかけました。

彼女は明るく聡明な女性ですが、どこか捉えどころのない印象を与えます。

近況などを伝えあつてから、実はと話を切り出しました。

彼女と私の接点はそこにしかありませんから、彼女も何を聞かれるか解っていたでしょう。

あなたとひろさんはあのとき初めて会ったのですか。

そうです、と彼女は端的に答えました。

それでは、改めて聞きますが彼女に初めて会ったのはいつですか。しばらく沈黙が続きました。

そのとき私には満月が見えていました。ひろが森に入り込んだ日と発見された時の。

私がさらに何か言うべきなのかと考えたとき、

ごめんなさい、と彼女は話し始めた。

あのときそういつぶりに訊かれていたらどう答えただろうかと考え
ていたのです。私たちが考えていたより事は大げさに進んでしまっ
たのです。私がおか言う隙間などもありませんでした。

あれからひろには何度も会っています。私たちは友だちですが、で
もあの時の話をすることはありません。

答えは簡単です。もう忘れました。

どんな事があったのか、それはひろが話していたとおりです。

あれは架空の森の話です。

何か言おうかと思ったが何も言わず、礼を言って電話を切った。

森自体がすでに架空のものになっていることに気付いたからだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9524o/>

架空の森

2011年10月8日08時34分発行